

## 1 改訂の基本的な考え方

家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とし、改善を図った。

## 2 目標の改善

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

- ・目標の(1)・・・学習内容として主に家庭生活に焦点を当て、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、日常生活に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、生活における自立の基礎を培うことについて示した。
- ・目標の(2)・・・学習過程を通して習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にした。
- ・目標の(3)・・・(1)及び(2)で身に付けた資質・能力を活用し、家族生活を大切にすることを育むとともに、家族や地域の人々と関わり、家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことを明確にした。

**Point** 育成を目指す資質・能力は三つの柱に沿って示されており、これらが偏りなく実現できるようにすることが大切である。実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、これら三つの柱を相互に関連させることにより、教科全体の資質・能力を育成することが重要である。

## 3 学習内容の改善・充実

- (1) 小・中学校の各内容の系統性の明確化  
小・中学校ともに「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の三つの内容とし、各内容及び各項目の指導を系統的に行う。
- (2) 空間軸と時間軸の視点からの学習対象の明確化
  - ・空間軸の視点…主に自己と家庭。
  - ・時間軸の視点…現在及びこれまでの生活。
- (3) 各内容の各項目で育成する資質・能力の明確化  
アとイの二つの指導事項で構成。原則、アは、「知識及び技能」の習得に係る事項、イは、アで習得した「知識及び技能」を活用して「思考力、判断力、表現力等」を育成することに係る事項とした。
- (4) 一部の題材の指定
  - ・B(2)「調理の基礎」のア(エ)では、加熱操作が適切にできるようにするため、ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱う。
  - ・B(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」では、ゆとりや縫いしろの必要性を理解するため、日常生活で使用する物を入れるための袋などの製作を扱う。
- (5) A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の設定  
家庭や地域と連携を図った「家族・家庭生活についての課題と実践」を新設し、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、習得した知識及び技能などを活用して課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うこと。
- (6) 「生活の営みに係る見方・考え方」と関連を図った内容の見直し  
Bでは、住まいの主な働き、Cでは消費者の役割を新たな内容として扱うこと。A(1)アで触れる「生活の営みに係る見方・考え方」における視点との関連を図ること。
- (7) 社会の変化に対応した各内容の見直し
  - ・A…少子高齢社会の進展や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応して、幼児又は低学年の児童、高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱う。
  - ・B…食育を一層推進するとともに、グローバル化に対応して、日本の生活文化の大切さに気付くことができるよう、和食の基本となるだしの役割や季節に合わせた着方や住まい方など、日本の伝統的な生活について扱う。
  - ・C…持続可能な社会の構築に対応して、自立した消費者を育成するために、中学校との系統性に配慮し、買物の仕組みや消費者の役割について扱う。

## 4 学習指導の改善・充実

・AからCまでの各項目に相当する授業時数及び各項目の履修学年については、児童や学校、地域の実態等に応じて各学校において適切に定めること。

**Point** A(1)アについては、第4学年までの学習を踏まえ、2学年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして取扱ひ、第5学年の最初に履修させるとともに、A、B、Cの学習と関連させるようにする。

・A(4)については、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させること。その際、A(2)又は(3)、B、Cで学習した内容との関連を図り、課題を設定できるようにする。

**Point** 履修の時期については、実践的な活動を家庭や地域などで行えるよう、学校や地域の行事等と関連付けて学期中のある時期に実施したり、長期休業などを活用して実施したりする方法が考えられる。